

平成 18 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」についての分析と考察

平成 19 年 8 月 1 日

江戸川区立瑞江中学校

<瑞江中学校としてのまとめ>

1. 学力向上を図るための調査のとらえ方

この調査は平成 19 年 2 月、現在の 3 年生を対象にした調査である。平均正答率について一喜一憂したり、他校と比較したりすることが真の目的ではない。

本校の生徒の学力向上を図るために、調査報告書の分析と考察を行い、分かりやすい授業の確立と、基礎・基本を身につけることのできる授業の実践に役立てることが特に重要である。

2. 学力向上を図るための調査の結果について

本調査における瑞江中学校の生徒の総合結果は、おおむね東京都及び江戸川区の平均正答率を下回る結果となっている。この結果については、真摯に受け止めるとともに、全教職員による分析と考察を行った。(→各教科の欄を参照)

この調査の結果をみると、本校の生徒がほとんどの教科に関して高い関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている姿がみられる。実際、しっかりした目的意識を持ち、おおむね落ち着いた態度で授業に臨んでいる。関心・意欲・態度とともに、表現する力の高さは指導の成果である。特に、表現する力は都の平均より 6.6%、江戸川区の平均より 8.6% も高い。しかしながら、知識・理解は低く、基礎的・基本的な学力がまだ定着していないこと。また、文章や図表をみて解答を導き出すという応用力が不足していることを示している。何が問われているのかを正確に読み取る国語力の底上げを図る必要がある。また、学習意欲が乏しい生徒がいるという課題も完全に解消されたわけではないし、家庭学習の習慣が確立していないことも大きな課題と考える。

3. 学力向上を図るための取り組みについて

本校では基礎学力向上を図るために次のような取り組みを行っている。

- 「授業時数の確保」・・・授業時数の確保に努め、生徒の学習時間を保障している。
- 「学力向上プラン」の推進・・・総合的な学習の時間も含め、各教科の学力の向上を目指す。重点目標は、①基礎・基本の定着、②自己学習力の向上の 2 本柱である。
- 「朝の読書活動」の実施・・・毎朝、全校一斉に朝の読書活動を行い、人間形成の推進と学力の向上を図る。
- 「国語・数学・英語」の習熟度別少人数授業の実施・・・1 つの学級を 2 つ又は 2 つの学級を 3 つの習熟度別少人数クラスに分け、教師の目の行き届いた個に応じた分かりやすい授業を行う。
- 「総合的な学習の時間」の充実・・・自ら調べる力、まとめる力、発表する力を鍛える。
- 「多様なコースの選択教科」・・・3 年は 16 コースから 4 つ選択できる。
- 「夏休み等の学力補充」・・・希望する生徒が登校し、教科指導を受ける。
- 「英検」「漢検」「数検」を校内で実施・・・多くの生徒が受検できるように配慮する。

以上のような取り組みだけでなく、学校行事、生徒会活動、部活動なども含めた全教育活動を通し、生徒の学習意欲を喚起しつつ、総合的な問題解決学習などの総合的な学力の向上を図ることを目指している。

< 国 語 >科

<教科としてのまとめ・目標>

内容ごとの正答率 (%)				観点別の正答率 (%)			
内容	東京都	江戸川区	瑞江中	評価の観点	東京都	江戸川区	瑞江中
話すこと・聞くこと	83.6	80.7	84.3	関心・意欲・態度	90.8	89.4	93.5
書くこと	78.5	75.9	73.8	話す・聞く	78.1	73.9	75.7
読むこと	64.3	61.6	58.2	書く	70.8	67.3	63.6
言語事項	65.3	62.1	58.6	読む	64.3	61.6	58.2
総合	69.5	66.6	64.4	知識・理解	65.3	62.1	58.6
内容ごとの正答率からみた課題				観点別の正答率からみた課題			
<p>話すこと・聞くこと…2問だけなので、正確な力が測れているとは言えない。話すこと・聞くことに関する関心は高い。</p> <p>書くこと…文章をわかりやすく構成し直す問題の正答率が低かった。</p> <p>読むこと…前後の様子から、登場人物の気持ちを推測する問題の正答率が低かった。</p> <p>言語事項…「郷里」の読みや、「ケンゾウ物」「メンミツ」などの書き取りの正答率が極めて低かった。基本的な練習を繰り返すことが必要である。</p>				<p>関心・意欲…授業への取り組みは素晴らしいので、その結果が調査に反映している。</p> <p>話す・聞く…授業で「話す・聞く」の活動を多く行っていることが結果に反映している。</p> <p>書く…文章を書く力というより、文章をわかりやすく構成したり、推敲したりという力を身につけさせる必要がある。</p> <p>読む…根拠を探し出して、自分なりに推測する力をつけさせる必要がある。</p> <p>知識・理解…基本的な言語知識を身につけさせる必要がある。</p>			
指導方法改善のポイント				指導方法改善のポイント			
<p>全体的な学力を上げるために、国語を中心とした読解力の向上が求められている。単純に読む力ではなく、文章の構成をつかみ、テキストの伝えたい内容をしっかり把握し、根拠を求めた上で自分なりの意見を書いたり発表したりすることが目標となる。具体的には、右の通り改善をしていく。</p>				<p>① 根拠を元にした自分なりの意見を文章として完成させる指導。話し合いを取り入れ、よりよい文章に構成し直すことを目標とする。</p> <p>② 文章中に根拠を求めながら、文章中のできごとを推測させる指導。</p> <p>③ 1・2年生の漢字を徹底的に復習させる指導。練習をくり返し、確実に身につけさせることを目標とする。</p>			

<教科としてのまとめ・目標>

授業への取り組みは、意欲・関心ともとても高い。ただし、積極的な生徒が答えるだけの授業にならないよう、どんな問題であっても、根拠を元にした自分なりの解答を出せるように、ねばり強く取り組んでいきたい。また、発表をしたり、意見を話し合ったり、といった活動をたくさん取り入れてきたので、これからもその能力を高めていけるよう、意識していきたい。

卒業までに、漢字検定3級取得を目標にしてきたが、より上位の級取得を目指せるように、意欲や関心を高める取り組みもしていきたい。

< 数 学 >科

内容ごとの正答率 (%)				観点別の正答率 (%)			
内容	東京都	江戸川区	瑞江中	評価の観点	東京都	江戸川区	瑞江中
数と式	71.6	67.6	63.9	関心・意欲・態度	93.5	92.1	94.1
図形	65.6	61.9	55.8	見方・考え方	49.9	45.2	41.4
数量関係	71.2	67.3	69.2	表現・処理	74.2	70.2	67.0
総合	70.2	66.2	63.3	知識・理解	65.9	60.9	55.6
内容ごとの正答率からみた課題				観点別の正答率からみた課題			
<p>○総合・・・総合的な正答率は 63.3%であり、各内容の正答率も 70%を越えていない。このことから、第 2 学年における学習指導要領の目標、内容に照らした学習の実現状況については良好とはいえない。</p> <p>○数と式・・・7 問で 70%を越えていない。1(2) など、数学の初歩の段階でもできていないので、全体的な計算力の底上げが課題である。</p> <p>○図形・・・1(6)や4など、図形の基礎的な部分でも正答率が低いので、基礎知識の定着が必要である。</p> <p>○数量関係・・・一次関数に関しての基礎的な知識をつけなければならない。</p>				<p>○ 4 観点のうち、関心・意欲・態度以外で 80%を越えず、良好とはいえない。</p> <p>○ 興味・関心・態度に関しては、良好な状態を保っている。</p> <p>○ 見方・考え方に関しては、文字式を利用して物事を考える習慣が十分身に付いてはいない。</p> <p>○ 表現・処理に関しては、一学年の計算問題から繰り返して練習する必要があるが、特に文字式で表す方法や関数に関する問題が課題である。</p> <p>○ 知識・理解に関しては、全体的に基礎的な知識の定着が必要である。特に、一次関数の部分が課題である。</p>			
指導方法改善のポイント				指導方法改善のポイント			
<p><数と式></p> <p>○一年生の学習内容が定着していないので、繰り返し基礎的な問題の練習をする必要がある。</p> <p><図形></p> <p>○基礎知識に関して、説明するだけでなく、覚えているか、使うことができるかどうかを繰り返し確認する必要がある。</p> <p><数量関係></p> <p>○関数の式の意味や、基礎的な内容をしっかりと定着させる必要がある。</p>				<p><興味・関心> 数学に対する興味・関心が向上してきたので、より実例に即した教材を使用して、興味をもたせる必要がある。</p> <p><見方・考え方> 実例に即した教材を使用し、普段より数学的な見方ができるようにしたい。</p> <p><表現・処理> 多様な問題に混乱しないよう、計算方法を定着させ、問題を読み取る力をつけていくことが必要である。</p> <p><知識・理解> 授業において、重要事項をよりしっかりと印象づけなければならない。</p>			

< 教科としてのまとめ・目標 >

数と式の内容、知識・理解や表現・処理といった部分の定着が十分でない。数学を学習する上での大切な部分であるので、繰り返し練習をさせていかなければならない。まずは、正負の数の計算問題の部分からしっかりと定着させ、文字やグラフなどを用いて考える力をつけていきたい。

< 英 語 >科

内容ごとの正答率 (%)				観点別の正答率 (%)			
内容	東京都	江戸川区	瑞江中	評価の観点	東京都	江戸川区	瑞江中
聞くこと	80.4	76.3	72.3	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	78.7	75.2	73.1
読むこと	78.8	75.2	71.7	表現の能力	69.9	62.3	59.3
書くこと	74.9	69.5	65.5	理解の能力	76.5	72.4	68.1
				言語や文化についての知識・理解	82.7	78.5	74.7
総合	78.2	73.9	70.2				
内容ごとの正答率からみた課題				観点別の正答率からみた課題			
<p>◇ 総合的には70%の正答率でおおむね良いが、</p> <p>◆「聞くこと」では、英文の大意を理解する問題は比較的できているが、質問の文を正確に聞き取って、答えることができなかった。</p> <p>◆「読むこと」では、説明の日本語や問題文の英語を最後までよく読まず、質問を理解していない。</p> <p>◆「書くこと」では、基本的な文法事項が定着していない。</p>				<p>◆「表現の能力」「理解の能力」が70%を下回っていて、特に「表現の能力」が低い。「表現の能力」を支える語彙や基本文型・文法事項の定着を図る指導が必要である。</p> <p>◆「理解の能力」については意欲的に取り組めるように、段階を踏んだ指導が必要である。</p>			
指導方法改善のポイント				指導方法改善のポイント			
<p>○「聞くこと」 聞いたり、読んだりする英語の量を増やし、充実させたい。</p> <p>○「書くこと」 テーマを与えて、既習の文型を使ってある程度まとまった量の英文を書かせる。</p>				<p>○「話すこと」 他の3技能との関連を考えて、Q&Aや発表の機会を増やす。</p> <p>○「読むこと」 教科書の文だけでなく、初見の文にも取り組ませ、内容が把握できるまで繰り返し読ませる。</p>			

<教科としてのまとめ・目標>

学習目標が生徒にしっかり伝わるように工夫しながら、語彙や基本文型、文法事項が定着するように、授業や、家庭学習で、繰り返し学習させる。

生徒の理解に合わせて、既習内容の徹底を重点的に行ったり、発展的内容を増やしたり、工夫する。

＜ 社 会 ＞科

内容ごとの正答率 (%)				観点別の正答率 (%)			
内容	東京都	江戸川区	瑞江中	評価の観点	東京都	江戸川区	瑞江中
地理	66.6	63.1	56.6	関心・意欲	91.5	89.9	88.3
歴史	74.4	71.5	69.0	思考・判断	62.7	59.5	56.6
全体	70.5	67.3	62.8	資料活用の 技能	73.9	71.3	66.8
				知識・理解	66.5	62.5	56.0
内容ごとの正答率からみた課題				観点別の正答率からみた課題			
<p>○地理的分野 「日本の地球上の位置」についての思考や知識を問う問題では正答率 28%前後と極端に低かった。世界・日本とも基本的な知識を系統的に定着させることが必要。</p> <p>○歴史的分野 歴史的分野では古代・中世の知識、思考を問う問題の正答率がやや低かった。また各時代の特色を資料から読み解く問題の正答率が低く、日頃から資料を多く提示し、それを活用し読み解く練習が必要。</p>				<p>○「知識・理解」における正答率は 56.0%と知識が定着していない。「知識・理解」は「意欲・関心」「思考・判断」の基礎となるもので、今後も小テスト等や課題を通して定着をはかりたい。</p> <p>○「関心、意欲」、「資料活用、技能・表現」については、おおむね良好である。「思考・判断」については、地理、歴史とも多面的・多角的に事象を考察する力を身につけさせたい。</p>			
指導方法改善のポイント				指導方法改善のポイント			
<p>○地理的分野 「世界と日本の地域構成」をはじめ、基礎・基本となる知識を定着させるための指導に力を入れる。また、地球儀や地図を一層活用し大陸、海洋、主な国々の名称・位置を理解させる。</p> <p>○歴史的分野 歴史の大きな流れや時代の特色、全体像を系統的にとらえ、多面的・多角的に考える力の育成を図る。</p>				<p>○ 覚えさせるべき事は、小テストなどを繰り返し、徹底して覚えさせる。</p> <p>○ 平素から地図、絵図、年表、統計資料などを読み取らせる等の活動時間を確保する。</p>			

＜教科としてのまとめ・目標＞

- 「知識・理解」は、「思考・判断」「意欲・関心」の基礎である。地理・歴史的分野とも系統的な知識を定着させることをめざす。
- 演習課題に反復して取り組む機会を増やし、基礎的・基本的事項の知識、理解力の育成を図る。

< 理 科 >

内容ごとの正答率 (%)				観点別の正答率 (%)			
内容	東京都	江戸川区	瑞江中	評価の観点	東京都	江戸川区	瑞江中
第1分野	67.5	65.1	61.5	関心・意欲・態度	93.9	92.9	95.1
第2分野	69.7	67.6	65.4	科学的思考	60.8	58.5	52.3
総合	68.6	66.4	63.5	技能・表現	59.5	57.1	60.9
				知識・理解	70.0	67.3	60.8
内容ごとの正答率からみた課題				観点別の正答率からみた課題			
<p>◆総合的に第2学年までの学習指導要領の目標、内容に照らした学習の状況については、良好とはいえない。</p> <p>◆第1分野については、電流など目に見えない事象を扱う学習内容がより正答率が低い傾向にある。</p> <p>◆第2分野については、地層中の化石や血液循環など普段目にする事の少ない事象に関する問題がより正答率が低い傾向にある。</p>				<p>◆第1観点、第3観点を除き、あまり良好とは言えない正答率である。</p> <p>◇「自然事象への関心・意欲・態度」については、正答率が95%を超え、良好な結果といえる。</p> <p>◆「科学的な思考」については、図やグラフからの読み取りができないことが正答率を下げている。</p> <p>◇「観察・実験の技能・表現」については、観察・実験を多く取り入れていることが良好な結果をもたらしたといえる。</p> <p>◆「自然事象についての知識理解」については、実物にふれることができない事象についての知識の定着に課題がある。</p>			
指導方法改善のポイント				指導方法改善のポイント			
<p><自然への関心・意欲・態度を高める指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業を聞く態度はこれまでも良好である。今後もこれを継続させるため、内容の吟味、資料の収集・整理にあたる。 ○ 観察・実験をできるだけ個別化を図り、興味を持って学習する環境をつくる。 <p><科学的な思考の指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常・身近に見られる現象がどのようにして起こるかについて、疑問を持たせ考えさせることを授業に織り込む。 ○ 観察や実験で得たデータをもとに考察する能力、データから得たグラフより規則性を考える能力をまとめた授業で育成する。これらをレポートやワークシートで評価する。 				<p><観察・実験の技能・表現の指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験をできるだけ個別化をはかり、技能を身につけやすくする環境をつくる。 ○ 今後も観察・実験後にレポートやワークシートを提出させる指導について継続と徹底、評価方法の工夫を図る。 <p><自然事象についての知識・理解の指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「音」「電流」「地層中の化石」など目に見えないものを具象化する指導方法、資料、視聴覚教材の活用をすすめる。 ○ 関連のある単元では、復習をかねた指導を授業に多く含め、知識としての定着を図る。 ○ 家庭学習課題を明示し、知識の定着を図る。 			
<p><教科としてのまとめ・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物理的な分野の指導として、データを整理する力を育てるとともに、計算力の向上が必要不可欠である。練習の時間を取り入れ、この分野の向上を目指していきたい。 ○ 観察・実験の機会をふやし、また、レポートやワークシートを書かせることで目的や結論を導き出す能力を伸ばしていきたい。 ○ 選択の授業や夏季休業日等を利用し、演習する機会をつくり、既習の単元を着実に身につけさせるようにしたい。 ○ 問題文が長くなると、問題文を理解することができない傾向があるので、読解力の育成も視野に入れた指導を行いたい。 							

<問題解決能力等>

内容ごとの正答率 (%)				観点別の正答率 (%)			
内容	東京都	江戸川区	瑞江中	評価の観点	東京都	江戸川区	瑞江中
1. 見通す力	83.5	80.6	79.6	問題を発見する力	91.9	91.2	88.0
2. 表現する力	66.5	64.5	73.1	見通す力	83.5	80.6	79.6
3. 問題を発見する力	91.9	91.2	88.0	意志決定する力	61.3	57.5	54.6
4. 適用・応用する力	69.7	68.6	69.4	表現する力	66.5	64.5	73.1
5. 適用・応用する力	64.0	61.8	60.2	適用・応用する力	71.5	67.5	65.2
6. 適用・応用する力	60.8	56.9	48.1	観点の趣旨			
7. 適用・応用する力	75.5	65.1	63.9	○問題を発見する力…与えられた情報を分析・考察して、その状況において解決が必要となる問題を見つけることができる。			
8. 意思決定する力	61.3	57.5	54.6	○見通す力…与えられた情報を分析・考察して、問題を解決するための方策や結果の予想を考えることができる。			
9. 適用・応用する力	87.5	85.3	84.3	○意思決定する力…複数の条件を理解し、その条件に適切に対応して判断し、問題を解決することができる。			
総合	73.4	70.2	69.0	○表現する力…問題の結論やその根拠を明確に表現したり、問題の解決の方法（道筋）を適切に表現したりすることができる。			
指導方法改善のポイント							
<p>本校の生徒の得意な領域は、「表現する力」であることが改めて浮き彫りとなった。「表現する力」の育成を、総合的な学習の時間の目標として設定したり、各教科で意識して取り組んできたりした結果と考えられる。その反面、「適用・応用する力」の落ち込みが顕著である。特に東京都の正答率との差が10%以上ある6番目と7番目の問題は、理科と英語の基本知識を応用した問題であり、普段学習している基本知識と、実生活との関連において応用力が不足していると考えられる。従って指導方法改善のポイントとしては、理科においては、実験をする際に目的や実生活との関連をイメージさせること、英語においては長文に慣れさせ、わからない単語があっても他のわかる単語から類推して文意を把握する練習をすることが必要となる。</p>							